

どんな活動帯・時間帯で起こりやすいですか？

休み時間。

「いじり」か「いじめ」か

木村祐美

いじめの芽は、「いつでも」表出する。「芽」の段階は意識が薄い。だから、堂々と教師の前で行われる。

例えば、授業中。机をつけようとしていない。特定の生徒の発言に笑いが出る。例えば、当番。ある生徒に仕事が回る。物の受け渡しを嫌がるそぶり。など。嫌悪感が何かの拍子で表出されたり、これくらいなら…というアドバロンが揚げられたりする。授業中も当番も教師の監視下にある時間帯である。システムで予防し、気づき詰めていくことは可能である。

休み時間や下校時。一見楽しそうにふざけあっている光景。いじめの芽には、「ふざけ」の延長がある。悪意は

いじめが行われる 男性教師の死角

濱渦明俊

昼休みや放課後など、教師の目が届かない時間帯が一番危ない。その中でも特に教師の目が届かない体育の着替える時間だ。

男性教師なら、女子更衣室は必ず死角になる。また、男子からの情報も期待できない場所となるからだ。

しかしそれは、女子の行動を注意深く見ていれば、気づくことができる。

例えば集団で体育に遅れてくるようになれば要注意だ。その集団は、すでに完成されている。この集団に入れない子、もしくはこの集団の子が遠からず標的になるだろう。また、逆に更衣室にいる集団が怖くて入れないという子もいるだろう。こういう子は、

見えないいじめ 「靴隠し」

神谷和宏

ここでは、「靴隠し」を考えてみたいと思います。靴隠しは、重大ないじめです。加害児は下校時や休憩時間、昼食時を狙って下駄箱へいき、被害児の靴を自分の靴のようにして持ち、普段行かないところや物陰に隠したりします。事件が発覚したら、学級全体や学校全体で大げさに靴を探すことが必要です。加害児にも探させることで抑止力になることもあるからです。

学級担任は、普通であれば加害児がうすうす分かるものです。しかし、問題となることは、その加害児とどのように接するかです。呼びつけて「いきなり君がやったんじゃないのか？」と迫っても関係を破壊することもあるからです。

いじめの芽—気づき・潰す！瞬発力発揮のポイント

なく、相手の辛さに気づかず、エスカレートする虞がある。お笑いの「いじられ役」のような役割が、いつしか「いじり」の範疇を超えていく。例えば、プロレスごっこや下校時の「ジャンケン荷物持たせ」などのように目に入りやすいものもあるし、あだ名や、日常の会話に潜むこともある。

これらは最初、対等な関係の冗談から始まる。徐々に、上下関係が生まれきたり、される側が特定になったりする。その小さな変化に気づけるかが問われる。言動の内容。される側が特定の人になっていないか。生徒の表情は？—小さな変化を見取るには、日常から生徒と多く関わっていることが大切である。休み時間等も廊下や教室で過ごし、積極的に生徒に声をかける習慣や、日記指導も発見に寄与する。

（東京都公立中学校）

いじめられている場合が多い。

教師が素早く着替えることや、「すぐに来るように」といったルールを設定することも大事だが、それ以上に大事なことがある。

それは、その女子たちの行動を、教師が把握していることを「それとなく」伝えることだ。教師が昔体験した話としてもいいだろうし、別の学校であったこととして話してもいいだろう。

「遅れてくる子」が、どんな場面にも多いのか、そして、どんなことをしているのかということ、子どもたちにも日頃から話しておく。これが抑止力になる。しかし、それ以上に、子どもたちが、「自分たちは教師に見られている」「自分たちは教師に行動や考えが見抜かれている」と感じさせる日々のコミュニケーションが大切である。

家庭関係の雨雲が原因

加害児によくある原因として、家庭での問題（夫婦不仲……とか）があります。これは、普通は隠れていることなので、学級担任にも見破りにくいことですが、意外に多いようです。ただ、この場合は、担任が一人では解決がしにくいものです。そして、さらに加害児の心の拠り所となり、より深い関係が求められます。

全家庭に解決の協力を

加害児はなかなか見つからないものですが、全家庭に解決の協力をお願いすることも有効です。多くの児童は保護者に知られるのを最も嫌っています。そこで、保護者に「学校でこのような事件がありました。心当たりやうわさがないか聞いていただけますか？」とお願いすることです。回答が得られなくても、効果は感じられるものです。

（愛知県刈谷市立かりがね小学校）